

最近読んだ本

私は元気です 病める時も健やかなる時も腐る時もイキる時も泣いた時も病める時も。



- 2023/9出版
- 著者は声優さん &コテコテの名古屋人
- 文春オンラインのインタビュー記事が出版の発端 といいつつご本人のブログにもいろいろと書いてある
- 気楽な読み物...にしてはちょっと重い内容ですが、随所に笑えるエピソード

ツブヤキ長め。

2019-03-15 12:03:47

テーマ： [ブログ](#) >

中学3年生の夏のはじめ、入院をした。
初めて聞いた
特発性血小板減少性紫斑病という言葉。
自分の免疫が自分を攻撃してしまう
自己免疫疾患の一種らしい。
血が止まりにくい以外は体調も悪くない。
当然すぐに退院できるものと思っていた。
入ったのは個室だった。
毎晩、家族が晩ご飯を持って病室に来る。
全員で一緒に食べる。
毎晩じゃなくても良いのと言いながら
特別な行事のようで楽しかった。
甘やかされたせいがかかなり太った。
後に点滴薬の副作用の浮腫だと知った。

オーディションに受かり事務所に所属した。
新人の頃は主に外国映画の吹き替えをした。
なんとか食べて行けた。夢中になった。
そんな折、妹が亡くなった。
大学生だった。
学生寮で暮らしていて、ある夜
心不全の発作を起こした。
突然だったと言う。
健康な人でも起こす事がある症状だと言う。
亡くなった人を写真におさめてはダメだと
注意された母にせがまれ、
私はその時の妹を描いた。
東京に戻った。
私の人生の中でこれより悲しい出来事は
もう起こりえないだろう。
仕事のNGのジャンルを無くした。
全部の時間を埋めたかった。
仕事をしている時だけ心から楽しかった。
望んだ通り、何も考えられないくらい
忙しい日々が始まった。

何時間経ったか、もうすぐ夕食の配膳だ。
バれないようにこっそり病室に戻ろうとして
病棟に入った途端に捕獲された。
さらに愛知から両親が呼び出されていた。
主治医と親にダブルで叱られる。
なんだなんだ、人の気も知らないで。
しかし明日以降はどうやって抜け出そう。
監視が厳しくなるだろうからな。
それにしても疲れた。
久々に動いたせいか眠れない。
てゆうかお前こんなに足掻けるんやんけ。
その夜、唐突に笑えてきた。

セカンドオピニオンを探し始めた。
2度の転院を経て出会った新しい主治医に
え？2週間？何で？的な返答をされた。
え？違うの？私、大丈夫なの？
どうやらやつら、もとい
一定数の医者には盛り癖がある。

またしても無事退院。
しばらくは実家で暮らした。
妹の部屋を片付けた。
そっちに行くのは先延ばしになったよ。
会いたい人も増えた。
会えるのかな。
会えると信じる以外ないから信じるか。

上京して仕事を再開した。
持病はずいぶん軽くなった。
ちゃんと休む時間を取れば
普通の生活をして良いと言われる。
もう普通がどんなか忘れかけていたけど
これはとても嬉しい。
薬の後遺症だけは少し手強かった。
が先々週、
その手術が成功した。
術後2日目にリハビリが始まる。
早い早い痛い痛いひぎい。
具体的に表現するのは憚られるが
まだ上にも下にも管が付いている状態で
数人の看護師が私のそれぞれの管を持ち
私と医師の動きの妨げにならないよう
見事なパスプレーで補助する光景が
異様で笑える。痛い。お腹も痛い。
こうして借り物の体はまた強くなった。
本日、無事退院。
悪くない。
悪くないと思える時間がまだ続く。
きっと私は幸運なんだろう。
今これを書けて嬉しい。
みんなに聞いて欲しかったんだな。
ツブヤキと言うにはあまりに長いね(笑)
読んでくれてありがとう。

“だったら、お墓に花壇を作ろう。どんな季節でも花に囲まれるように。お墓の石段のどこか一部分に花が植えられる場所を作ろうと思いました”

“石屋の主人にお願いしたら無理だと断られましたが、自作の設計書を出して粘ると渋々承諾してくれました”

- 第3章 p.92-94より



お墓をつくった。

はじめて、

私は

ちょうど20年前、

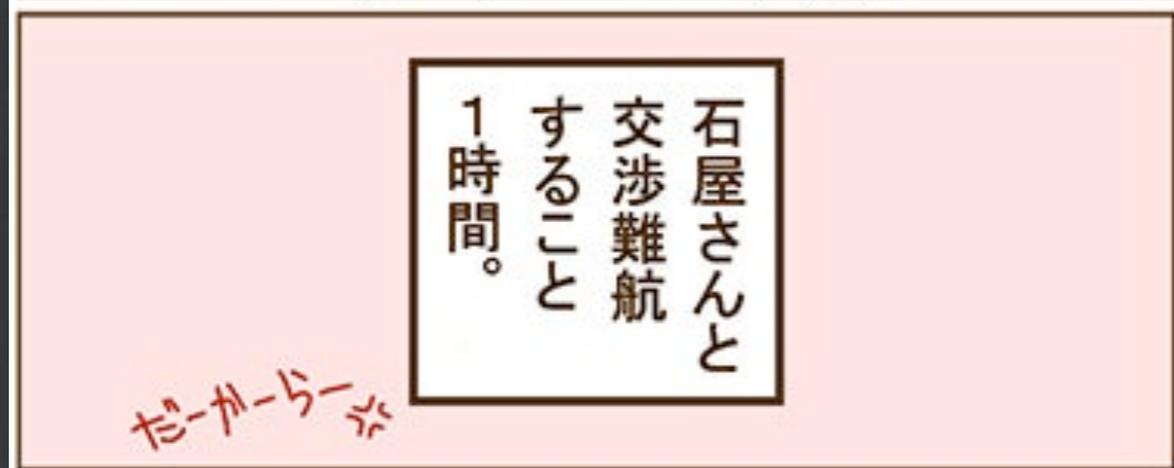


そんなの
ありませんよ。

二段目の石を
長めにして

無理ですよ。

んでね、
ココを抜いて、
土を入れて



石屋さん
と交渉難航
すること
1時間。

たーかーらーが

※イメージでお送りしております。



熾烈な
舌戦のすえ、

別途料金
かかる
からなっ!!
首洗って
待ってけや



おう!
何ほでも
払たるわい!!
(親が)



かしこまり
ました。

ちっ

はい。
せつけー図。

商談成立。